

## 会 議 録

会議の名称	第 5 回茨木市中心市街地活性化協議会
開催日時	平成 28 年 12 月 22 日(木曜日) 開始 10:00 ～ 終了 12:00
開催場所	茨木市役所 南館 6 階 第二会議室
会 長	山野 寿
出席者	〔協議会構成員〕 山野 寿 ((一社)茨木市観光協会 会長) (協議会会長) 木村 正文 (茨木商工会議所 専務理事) (協議会副会長) 植木 泰江 (立命館大学 総務部 次長) 山本 博史 (追手門学院大学 地域創造学部 教授) 肥田 弘之 (茨木市商業団体連合会) 鎌谷 博人 (茨木市都市整備部 部長) <div style="text-align: right;">(以上、計 6 名)</div>
事務局	(一社)茨木市観光協会 小池事務局長 茨木商工会議所 鳥山次長 茨木市 市街地新生課 岸田次長、福田参事、山根氏、黒葛原氏 商工労政課 吉田課長代理
議題	1) 場を開く社会実験実施状況について 2) 市民アンケート調査回収状況について 3) 中心市街地活性化基本方針と目標について 4) 事例紹介：静岡市呉服町
配布資料	資料 1) 社会実験実施状況 資料 2) 市民アンケート回収状況 資料 3) 中心市街地の将来像 資料 4) 中心市街地活性化基本計画 (案) 抜粋
<b>議 題 の 経 過</b>	
<b>発言者</b>	<b>議題 (案件) ・ 発言内容 ・ 決定事項</b>
<b>1. 場を開く社会実験実施状況について</b>	
事務局	只今から第 5 回茨木市中心市街地活性化協議会を開会する。 開会にあたり、山野会長からご挨拶を頂戴する。
山野会長	(あいさつ)
事務局	本日の出席状況をご報告させて頂く。委員総数 7 名のうち、6 名の委員にご出席頂いており、協議会規約第 10 条第 4 項の規定により、本日の協議会は成立している。 なお立命館大学 斎藤教授の代理として同大学 総務部 植木次長、茨木市商業団体連合会 山田会長の代理として茨木市駅東口商店会の肥田会長がご出席されている。 協議会規約第 10 条第 3 項の規定により、本協議会の議長は山野会長であるが、事務局に一任とのことであるので、市が進行を務めさせて頂く。
事務局	本日は、場を開く社会実験の状況報告、市民アンケート調査の中間報告、中心市街地活性化基本方針と目標について事務局より説明する。また最後に商店街のしもた屋問題に対する参考事例として静岡市呉服町商店街の取り組みを紹介させて頂く。

事務局	(場を開く社会実験について報告)
事務局	場を開く社会実験についての報告は以上である。 報告内容についてご意見等を頂きたい。
木村副会長	社会実験の期間は平成 29 年 3 月末までか。
事務局	そうである。 社会実験の感触としては、12 月 20 日 (火) のてづくり市は参加店舗が 6 店舗のため少ない印象が見受けられた。場の見た目としても十数店舗の参加が望ましいだろう。 また今回は 1 日だけの開催であるが、何日間か継続しての開催も検討したい。
鎌谷部長	2,3 日継続して開催するのは良いだろう。以前、市民より「イベントが開催されていたのを知って、後日行ってみたら、開催していなかった。」という報告も頂いている。
木村副会長	大学も周辺にあるため学生も参加して頂いても良いだろう。
植木委員	開催が平日の昼間では、講義の関係で学生の参加率は低いだろう。
事務局	大学の講義はいつまでか。
植木委員	定期試験が 1 月末にあり、2 月初旬は入試である。
事務局	2 月から 3 月は休みということか。社会実験を企画しても人手が足りない問題があるため、可能であれば学生に手伝って頂きたい。
木村副会長	学生に PR を兼ねたクラブ活動の発表をしていただくのはどうか。 さらに市内の事業者とコラボレーションして頂ければ良いだろう。
事務局	学生が登校する機会はもうあまりないか。現在の合格発表は掲示板まで見に来ないか。
山本委員	ネットで確認可能なため大半の学生は来ない。
木村副会長	2,3 月は部活やサークル活動のある学生以外は通学しないのではないか。
事務局	大学だけでなく、市内高校にも社会実験の周知と相談を行っている。
木村副会長	3 年生は卒業時期であり、また受験を控えている学生も残っているだろう。
鎌谷部長	社会実験で商品等を PR、店舗や商品等を覚えて頂いて、本店の来訪者を増やすという仕組みは順調に進行するか。
木村副会長	来年以降はどうなるのか。
事務局	未定である。
木村副会長	来年以降についても検討する必要がある。社会実験を通じて本店の客数が伸びるのか。
事務局	継続し続けると社会実験としての位置づけが失われる。
山野会長	社会実験を実施することは良いが、社会実験の目的を正確に理解して頂きたい。 商業の質の向上、更新につなげるための社会実験であり、ただ人を増員して賑わいを創出する形式では意味がない。魅力ある商品を販売することが目的であり、それを実行して頂ける意欲のある事業者が参加しないままでは、学生が何人参加しても目的は達成されないだろう。
鎌谷部長	魅力的な商業を始める契機となるように本社会実験を推進していきたい。
事務局	スカイパレット (JR 茨木駅前東口デッキ) は火気厳禁なため飲食店はハードルが高い

	ようである。
肥田委員	商店街にも焼き鳥屋を営む事業者がいるが炭火にこだわるため、火気厳禁のスカイパレットでは出店できないとのことであった。
鎌谷部長	今後も社会実験を実施する上で、火や臭いは問題になるだろうし、その対応は課題と認識している。
肥田委員	本実験への参加に関して、個店では敷居が高いと感じている事業者も多い。 ○曜日に10店舗、△曜日に15店舗と最初から参加する曜日や店舗数など提示して頂いた方が参加しやすくなるだろう。
木村副会長	次回のでづくり市も含め商団連の協力も得ながら事業者募集を行っていききたい。
事務局	市としても個店がバラバラに集うよりは、どこかが取りまとめて動いて頂ける方が望ましい。今後の社会実験に参加して頂ける事業者を募集する方法については検討する。
事務局	火気厳禁はスカイパレットのみであるか。
事務局	スカイパレットを含む道路上は禁止であるが、公園は協議の余地がある。
山野会長	スカイパレット以外でも意欲があれば商品のPRも兼ねて社会実験を企画、実施して頂きたい。
事務局	次いで市民アンケートの説明を行う。
事務局	(市民アンケートについての説明)
事務局	続けて、前回までの協議会意見と市民アンケートの結果を踏まえた、中心市街地活性化に向けた課題及び方針、目標について説明を行う。
事務局	(中心市街地活性化に向けた方針、目標についての説明)
事務局	市民アンケート調査の結果を踏まえて、中心市街地活性化に向けた方針、目標などについて、ご意見等を頂きたい。
事務局	アンケート結果に関して、飲食店以外で市民が求めている商業店舗は何か。
山本委員	本計画のターゲットを「平日昼間にいる人」と設定することは、アンケート結果から妥当であると感じるが、学生から「商店街には訪れる店舗が一軒もない。」という意見があるため若者向けの個性的な店もあった方が良い。
肥田委員	若者は梅田に行っているのか。
事務局	学生に特化した別アンケート調査で学生が市内でよく訪れる施設は大半がロサヴィアカイオンという結果が出ている。
木村副会長	どちらも送迎バス発着所の周辺である。発着所から電車まで直行するため、市内店舗を認知していないだけの可能性もあるが、学生がまちを回遊する工夫が必要である。また学生が求める店舗を展開したとしても、本当に学生が店舗を訪れ、利用するかは疑問が残る。
事務局	作ってほしいという要望に応えても、来訪しないようでは困る。 今回は単純集計の中間報告であるため、次回、クロス集計など分析をした上で本報告を

	行う。
植木委員	アンケート結果から本計画のターゲットを主婦、高齢者と広く設定するのは理解できる。 本計画の仕掛けとして、学生の力を活用するにしても一部の学生のみになってしまう。どのように学生全体が茨木市に滞留、回遊していくかの工夫が必要である。 立命館大学いばらきキャンパスには学会やイベント等で昨年度 6 万人程度の来学があるが、来学後そのまま帰ってしまうため、もったいない。
木村副会長	茨木市には宿泊施設がないため市外で宿泊することになる。そのため食事も宿泊施設近辺やその道中で食べる傾向にある。 ビジネスホテルは数件あるが、規模が小さく、すぐ予約が埋まるため、大半の宿泊利用者は吹田、江坂、梅田に行く。
事務局	以前、「住みつけたい地区と商業地区を区分するのはどうか」という意見があった。本アンケート結果でも、地区別の求めているイメージから、そのようなすみ分けが求められていることが明らかとなった。
事務局	観光協会に問い合わせが多いことは「バスターミナルがないのか」という質問である。バスを停車できないため市外へ行く場合もあるとのことである。小さくても良いので、阪急 JR 両駅前に 1 つでもバスターミナルを整備すれば滞留人口が増加する可能性もある。
木村副会長	公共のバスターミナルがあっても良いだろう。
事務局	バス利用からの来訪者が増加すれば商店街の事業者も意欲的になる。
木村副会長	JR と阪急の真ん中にバスを止めれば、必然的に駅に向かって歩くことになる。
事務局	市民会館が更新するタイミングで滞留する仕掛けができれば良い。
山野会長	中央通りは自転車が多いため危険であり、安心して歩くことができない。
鎌谷部長	本来であれば一方通行化を実施し、歩きやすい環境整備をする必要があるが、現在の交通量では、一方通行化を実行したとしても渋滞発生が容易に想定できる。そのため市域外周からの交通規制などを検討している。交通施策によって実際にどれだけ分散可能かを推計する必要もある。いずれにせよ今後のスケジュールは未確定である。 歩行者が歩きやすい環境整備はモール活性化のために必要であるため、本計画を契機に事前準備のようなものは進めていきたい。
山野会長	必要なく中心市街地を走っている車もあるだろう。不必要な車を締め出したら良いだろう。
事務局	アンダーパスの完成はいつか。
事務局	平成 30 年の予定である。
事務局	その場に留まらないとモールとして機能しないだろう。 大学だけで活動を完結するのではなくて、商店街まで広げる必要がある。
山本委員	駅周辺に学生がいけるような商店が必要であり、整備したとしても駅からすぐに帰るようにはならないだろうか。
肥田委員	学生は何に対して消費をする傾向にあるのか。 学生をターゲットとするのは良いが、実際にどの程度の金額消費が見込めるのか。

山本委員	服飾、美容等のファッション関係には消費している傾向にある。他にも旅行など。
植木委員	大学の生協におけるアンケート調査結果では、携帯電話・ネットの経費増の一方で、新聞・書籍の購入経費が減少している。 またファッション関係も古着などで買い方を考えている。 飲食でも SNS に投稿するために、ファッションの一環として消費する場合はある。
木村副会長	学生にも格差があり、お金のある子は大量消費するが、ない子は節約をするといった格差がある。
植木委員	大学でも値段設定に応じて複数の食堂を設けている。
事務局	様々な意見を頂いたが、将来像についてはどうか。 案 1、案 2、案 3 を提示しているが、それに対する意見はあるか。
事務局	前回協議会の「賑わいだけを重視して良いのか」という意見から、今回案 2、案 3 を提示している。
鎌谷部長	3案とも「文化」という言葉が出てきているが文化という言葉は何を表しているか。 協議会委員、事務局の感覚を共有する必要があるのではないか。
植木委員	文化力ということで、大学の力を活用するまちづくりということであるが、大学もそれを推進している。一方で、自宅生が 8 割ということ、また家賃が高いため、茨木市に下宿している学生は少ない。 大学としてはこの地で学ぶ学生に茨木への愛着を高めてほしいと考えており、さらに、将来的に茨木へ定住して頂ければとも考える。 目標には「市民講座の開設」と記載があるが、他の切り口も検討する必要があるだろう。 また開設する場合にも、既に同様講座が複数あるため、協議を重ねる必要がある。
木村副会長	茨木は昔から文化を推進しており、熱心に様々な取り組みがある。 大学が開学したから文化が創出されるのではなく、学生、講師が茨木の文化に触れて、参加して、知ってもらう。 そして学生や社員が触れて、街に住もうと感じて頂けるようにする。
山野会長	そのように取り組むべきであろう。
鎌谷部長	総合戦略にもそのように記載がある。「若い世代に選ばれるまち」と市の姿勢が示されている。(子育て・ファミリー層への魅力・優位性をいかし、さらに伸ばすことで、「選ばれる」まちをめざします。また、大学生の将来の U ターンにつなげるべく、茨木市への愛着の増進を図ります。)
木村副会長	新しく創出された文化、伝統的な文化を「総合して文化」というイメージではないか。
山本委員	全ての案に「文化」と書いてあるが、いまの説明が不足している。それが感じられる文章にするべきだろう。
木村副会長	市民だけでなく、通勤、通学の人に対して PR するものとして、「住みつつきたい」という表記を「住みたくなる」まちとしてはどうか。
事務局	市としての目指す方向は住みやすいまちである。
事務局	「第 2 のふるさと」という言葉があるが、それを連想したときに茨木市が思いつくようなまちにしていければ良いと考える。魅力が理解され、住んでいた人が思いだしてもらえようようなまちになれば良いだろう。

事務局	文化というと歴史文化というイメージがある。 茨木には歴史もあるため、単純に「文化」ではなく「歴史文化」と組み合わせるかどうか。
木村副会長	必ずしも文化は歴史と組み合わせるわけではないだろう。
事務局	もし文化という言葉を使うのであれば、「歴史文化」でなく「文化」であるか。
植木委員	留学生が新しい文化を作り出す可能性もある。
山本委員	3つをみると、案1が案2、案3をも含んでおり良いと感じる。
事務局	前回の意見を基に案2、3を提示したが、案1を基軸に案2、案3を加えていくのはどうか。
山野会長	あまり混ぜすぎると明確でなくなるため極力シンプルにすべきだろう。
木村副会長	スローガン「ほっといばらき、もっとずっと」に基づいた目標を設定すべき。
山野会長	「ほっといばらき」は、活性化を目指して顧客を集める熱い商店街という意味もある。
事務局	「文化」という言葉を入れるのであれば「文化」という言葉についての定義づけと共通認識を持つ必要がある。
植木委員	ターゲットの「主婦層」は幅広だが、どの世代を想定しているのか。購買力ある中高年あるいは、若い主婦・ファミリー層など、具体的にイメージはあるか。
事務局	若い世代がベビーカーを持って、大阪、京都まで行くのはハードルが高い。 そのような世代が市内中心部で消費してくれればというイメージは描いている。
木村副会長	立命館前の防災公園は、当初、学生が利用するかと思ったが、実際には若い子育て世代、子どもたちが集う場所となっている。
事務局	では将来像は「スローガン」に基づいて修正する。
事務局	「そのスローガン中で中心市街地はどのような役割を果たすべきなのか」という方針を考える。
事務局	本日の意見を踏まえて、再度新たに案を検討させて頂く。
事務局	
事務局	では最後に「呉服町商店街」の事例を紹介する。
事務局	(呉服町商店街の事例紹介)
事務局	商店街は呉服屋が多いのか。
事務局	昔は多かったようである。
事務局	組合数89は89店舗ということか。 中心市街地活性化基本計画は策定しているのか、また策定しているのであればこの取り組みは連動しているか。
事務局	計画は策定されているが、商店街のこの取り組みは商店街自身で行っている。
事務局	このような組織化を図る際に、行政は何か動くのか。
事務局	呉服町ではとくに行政が動いたと聞いていない。
肥田委員	商店街店舗も自治会に入らない場合が多い。賃貸マンションの居住者もマンションオーナーが自治会に入るなどと言って、入らない場合もある。
木村副会長	商店街で視察に行ってはどうか。
肥田委員	現在の茨木ではオーナーが自治会費を支払うという認識はないだろう。

	<p>茨木市でも自治会、商店街組合に加入しない店舗は増えてきている。 またチェーン店の場合は店長が権限ないと言って自治会費を支払わない場合が多々ある。</p>
事務局	<p>オーナーが貸す際に、何も言わないのか。</p>
肥田委員	<p>正確に伝えるオーナーは少ないだろう</p>
事務局	<p>空き店舗を解消する1つの取り組みとして、是非取り組んでいただきたい。</p>
肥田委員	<p>自治会、商店街組織が言ってもやって頂けない場合もある。行政にもある程度関与して頂きたい。</p>
山野会長	<p>そういう加入しない、支払わないことが許されてしまうと、商店街のつながりが緩くなる。</p>
肥田委員	<p>茨木市で自治会に参加しない理由の一つは、広報誌を全戸配布しており、情報が得られるためと言われている。</p>
事務局	<p>次回は基本方針策定に向けた整理で頂いた目標などを提示したい。 また市民アンケート結果についてもクロス集計などで精査していき、改めてご報告できればと思う。</p>
事務局	<p>委員の方々には長時間に渡り議事運営にご協力いただき、お礼申し上げます。次回の会議の日程等につきましては、決まり次第事務局より連絡させていただく。 以上で、第5回茨木市中心市街地活性化協議会を閉会する。</p>
	(12時00分閉会)
	以上